

大阪故鉄・諸福工場を拡張し環境整備を進める

大阪故鉄株式会社(矢追徹夫社長、本社大阪市)は、このほど諸福工場(大阪府大東市)の隣接地を取得し、今年4月から年内完成を目指して整備工事に着手した。

大阪故鉄㈱とは

矢追欣爾氏が戦後、1946年(昭和21)、製鋼原料商・矢追欣爾商店として独立したのに始まる。48年(昭和23)、住友金属工業の直納指定商として今日の地歩を固めた。71年(昭和46)には住之江区の現在地に本格的な大型処理工場を建設して、本社機能とも移転。98年(平成10)に大東市諸福に最新鋭大型工場を建設して、関西屈指の業容を整えた。

× × ×

欣爾氏は、戦前・戦中・戦後の激動期を生き抜いた業界の長老として84年(昭和59)～92年(平成4)、日本鉄リサイクル工業会関西支部長(第2代)の要職をつとめた(2000年死去)。90年欣爾氏の会長就任にともなって矢追徹夫氏が社長に就任。徹夫氏も00年(平成12)～04年(平成16)、工業会関西支部長(第5代)をつとめた業界を代表するリーダー企業である。

諸福工場

98年(平成10)11月4日開業、今秋10周年を迎える。高速型1250トン圧ギロチン、300トン油圧プレス、80トン計量器を中核に鉄スクラップ全般、ステンレスを処理する。開業当時は約5,000㎡だったが今年3月、西側隣接地約1,500㎡を取得(奥行き100m、間口約15m)した。下段の写真は緑地化が進んだ工場前庭(5月撮影)。

Next 10 Plan

西側隣接地を買収したことから工場敷地は約1.3倍

強に拡張したが、ギロチン増設など加工処理設備の増強は行わない。「次の10年」を目指して、工場前庭のグリーンベルト化(5月完成済み)や、買収敷地内部の植栽の増設、防音・防塵設備の増強など一連の「環境整備」工事を年内完成予定で進め、数量実績だけでなく企業の社会的な品格・品質実績でも業界のなかで伍していける強固な体質を構築する。

次代に夢を託する(矢追徹夫社長)

「企業の社会的な責任(CSR)」が叫ばれていますが、わが社は抽象的なスローガンとはせず、買収した隣地を緑地と防音・防塵の緩衝帯を設けることで、地域環境への配慮など目に見える形で具体化します。

鉄スクラップは7万円を窺う高値まで上昇しましたが、これ以上の高騰も逆に暴落も考えにくいでしょう。

我われはこの「新価格体系」のもとで、その価格にふさわしい行動をとるかどうかが、厳しく社会から問われる時代に入ったと覚悟しなければなりません。

先般、老舗の料理店で発覚したように、営々として築いた信用も不祥事を起こせば一瞬にして失われます。

× × ×

そのために、固い表現を使えば、限られた経営資源をどのように配分するか。柔らかな言い方をすれば、後ろ指をさされないために、どうするか・・・です。

わが社は「新しい時代」を見据えて数量実績だけを追うのではなく、社会的な信頼・信用を磐石なものにするため「企業品格の向上」に経営資源を投入します。諸福工場の拡充・環境整備は、その大きな一環です。

10年後、「無駄な投資でなかった」と次世代の評価を受けることができれば、それでいいわけです。

START Next 10 Plan

OSAKA KOTETSU
メタルリサイクル

今秋、大阪故鉄株式会社 諸福ヤードは10周年をむかえます、さらなる環境整備をめざし、Next 10 Planのスタートです。

 大阪故鉄株式会社

本 社 ・ 工 場 〒559-0026 大阪市住之江区平林北1丁目2番22号
諸 福 営 業 所 ・ 工 場 〒574-0044 大阪府大東市諸福7丁目4番38号
www.kotetsu.co.jp

